採択大学：熊本大学（強化を図る機能：②、③）

参画機関：東京大学、東北大学、九州大学、九州工業大学、熊本県立大学、東海大学、台湾大学、陽明交通大学、清華大学、成功大学、熊本県産業技術センター

取組内容の概要

10年後の大学ビジョン： 半導体集積地のモデル都市構築を先導し、世界中から多様な人材が集まる研究教育大学へ

半導体実装から社会共創研究を通じて、地域イノベーションの実現と持続可能な産業都市構築を目指す

サプライチェーンの強靭化

半導体関連大企業（jasm TEL SONY）

地域企業

地域企業

研究力向上
生産性向上
地域産業の新規参入

熊本大学 Kumamoto University

地域～世界規模の課題を総合的に解決する結節点

社会共創エコシステムの確立

熊本県内大学

台湾4大学

熊本県外大学等

強み分野創出
社会課題解決
ユーザー産業の創出
多様な人材の集まる場形成

戦略1. 半導体三次元積層技術の確立・関連産業支援

研究加速

- 強みである半導体・デジタル研究教育機構の強化
- 他機関・企業との共同研究、社会実装研究促進
- 他分野研究者の半導体研究への参入
- 研究サバティカル導入

人材育成

- 柔軟な人事制度
- 国内外の機関と連携した教育システム
- リスキリング整備

主な指標：
半導体企業との論文数
半導体産業就職数

実装支援

- 企業の製造課題解決
- 手厚い分析支援
- 半導体コアファシリティの充実
- 保守技術管理者育成

＊半導体三次元積層：高機能で安価な製品を生み出す新技術

全学展開 →
← 半導体活用

戦略2. 社会共創研究の推進

知の集結

- 社会共創ユニットの設置
- 連携機関を中心に産学官機関が課題解決に参画
- 融合研究推進による総合知の活用
- 多様な人材でユニットを構成

場の提供

- SOIL（DXイノベ棟）、OICセンターの活用
- 菊陽町「知の集積エリア」

主な指標：
民間企業研究費受入額
大学発ベンチャー数
学術コンサル受入件数

ブースター

- 産官学で構成する「研究開発戦略会議」による進捗管理
- PM、サポート人材等支援人材の重点配置
- 研究サバティカル導入
- 社会貢献を教員評価に反映

戦略3. 研究基盤の整備

研究支援体制強化

- 研究開発戦略本部の設置
- 体制一元化でシームレスな研究支援
- 柔軟な人事・育成制度で支援人材確保

環境整備

- 新システム導入によるDX化、効率化
- 他機関と連携した研修等による技術部門の機能強化

資金獲得強化

- ベンチャー部門新設
- 知財マネジメントの強化
- リスキリング、コアファシリティの収益化

主な指標：
外部組織化に向けた取組状況
研究時間の確保

BANK 大学発ベンチャーシードファンド

実施体制

熊本大学 Kumamoto University

学長

※学長、本部長、本事業のステークホルダーの代表者で構成

新設 研究開発戦略会議

進捗管理

新設 研究開発戦略本部

133名

本部長（研究担当理事）

基礎から社会実装まで一気通貫の支援

教員、コーディネーター、技術職員、URA等で構成

- 学術研究企画部門 — 新たなPJ発掘
- イノベーション推進部門
- リスクマネジメント部門
- 地域連携戦略部門 — リスキリング・アップスキリング整備
- ベンチャー推進部門 — 起業支援室
- 国際戦略部門 — 全学支援の国際化
- 技術部門 — 試作から分析まで付加価値を付けた分析支援・保守人材派遣

伴走 → 肥後銀行 大学発シードファンド（肥後銀行）

出資 → 熊本大学発VCファンド

支援 → 強み拠点 半導体・デジタル研究教育機構

連携

支援 → 新設 社会共創ユニット群

- PMが社会課題解決研究及び融合研究を先導
- 1ユニット20～30名の多様な人材で構成
- 研究サバティカルで研究時間確保

学外機関との共同研究オープンラボ「SOIL」を活用

5階建て
総面積：3,050㎡

ユーザー産業創出・実装 ユニット

ロボットPJ、スマート農業PJ、EV PJ …

PM / サポート人材等

環境負荷・インフラ対策 ユニット

水問題PJ、交通問題PJ、エネルギー PJ …

PM / サポート人材等

産業集積地の課題を地域ぐるみで解決

〇〇ユニット / 〇ユニット / 〇ユニット

地域～世界規模の諸課題に迅速に対応

支援 → 全学部局等

生命 自然 人社

新たな社会ニーズに即応できるPJ候補の涵養

拠点化

PJへの参画

参画機関

- 熊本県立大学
- 東海大学
- 県産技センター
- 東京大学
- 東北大学
- 九州大学
- 九州工業大学
- 台湾大学（台湾）
- 清華大学（台湾）
- 陽明交通大学（台湾）
- 成功大学（台湾）

協力機関

- 熊本県
- 熊本市
- 菊陽町
- IMEC（ベルギー）
- 県経済同友会
- 県商工会議所
- 肥後銀行
- JASM
- TSMC
- ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング
- 産総研九州

取組内容の時系列イメージ

R7 → R8 → R9 → R10 → R11 → 10年後

戦略1. 半導体三次元積層技術の確立・関連産業支援

①半導体研究と社会実装の加速
- 3D積層研究者雇用開始
- 専属URA雇用開始
- テクニシャンの雇用開始

②半導体の研究者、産業人材の育成
- SOILへの機器整備
- 半導体既存研究機器のリスト化、機器DBの整備
- 半導体リスキリングセンター設置
- 新コース・モジュール追加

③他機関との連携
- 台湾4大学の研究者・技術者・学生の交流
- 東北大・九大分室を設置 ・ 九工大に熊大分室を設置

戦略2. 社会共創研究の推進

①「社会共創ユニット」群の設置
- 出口マインド醸成のための教員業績評価基準の見直し
- 教員人事の一元化検討
- 一元化実施
- 研究開発戦略会議によるユニット認定・進捗管理

②ユニットの選定
- ユーザー産業創出ユニット編成
- 進捗評価
- （社会実装）
- 評価
- 環境負荷・インフラ対策ユニット編成
- 進捗評価
- （社会実装）
- 評価
- 新規 社会共創ユニット編成
- （社会実装）
- 菊陽町「知の集積エリア」拠点設置
- 社会共創フォーラムの開催

戦略3. 研究基盤の整備

① 全学の研究サポート・マネジメント体制の一元化
- 研究開発戦略本部の設置
- URA、コーディネーター等研究支援人材の雇用開始
- URAアソシエイト制度整備
- 起業支援室に銀行からコーディネーター配置
- 外国人研究者等のサポート体制強化

② DX環境整備による効率化
- 新システム導入によるDX化・効率化

③外部資金の獲得による経営力強化
- アントレ教育の質の向上及び拡大（他機関との連携強化）
- リスキリングコンテンツ・技術支援スキームの整理
- リスキリング・コアファシリティ
- 外部法人化検討
- 肥銀SFによるシーズ支援
- 規模拡充
- 熊本大学VC設置
- VCとの人材交流
- 1号ファンド設置

半導体集積地のモデル都市構築を先導し、世界中から多様な人材が集まる研究教育大学へ